

# ダイバーシティ推進委員会第2回ランチョンミーティング 「仕事と家族 どちらも大事！」開催報告

ダイバーシティ推進委員会 恒次祐子, 木村彰孝

2014年3月14日、愛媛大学での第64回大会中2日目にダイバーシティ推進委員会が主催するランチョンミーティングを開催しました。本委員会の前身である男女共同参画委員会が第63回大会（盛岡）の際に日本森林学会との共同企画で「研究者家族の様々なカタチ」をテーマとしたランチョンミーティングを開催しており、今回はそれに引き続き第2回のランチョンミーティングとなります（会の概要は本稿の最後をご覧ください）。

本委員会は学会に所属する様々な立場の方々、様々な形で学会に参加できるよう支援することを目的として活動しています。今回のランチョンミーティングは、特にこれから職業を選択し、おそらくいろいろな悩みを抱えながら仕事をしていくことになるであろう学生会員の方々に何らかの参考になれば、という思いで企画しました。このミーティングは、講演を拝聴して勉強するという会ではなく、参加者には身近にいる研究者の話を聞いて「そんなこともあるのかー」と思ってもらえれば良いと思っています。大会期間中委員全員でチラシ（図1）を配るなどがんばった結果、当日は40名弱の出席があり、盛況となりました。

ミーティングではまず3題の話題提供をいただき、その後オープンディスカッションを行いました。最初の話提供として鍋嶋絵里氏（愛媛大学農学部助教）より「研究と子育てとの両立...?」とのタイトルでお話をいただきました。最後に「?」がついている通り、現在進行形のリアルなお話をしていただいたことがとても良かったです。PDから特任助手になり、出産、育児、そして研究中断を経ながら現職に就かれるまでの出来事を、その時々を考えられたことなども含めてお聴きすることができました。いくつかの節目で周りにいる先生方が助けやきっかけをくれたことをその先生のお名前を挙げながらご紹介いただいたところでは、その先生方の顔も思い浮かび、思わずその場に自分もいて一緒に悩んでいたような気までしてくるのです。お子さんの成長にあわせてまずは日帰りから野外調査に復帰され、徐々に一泊の出張を入れられるようになったというお話は生態の専門家ならではの体験かもしれませんが、野外調査を学会や会議に読み替えれば、木材学会でも体験者は多くいると思います。

続いて安部久氏（森林総合研究所木材特性研究領域主任研究員）より「男女共同参画と私」という話題提供をいただきました。家庭では共働きの奥さまを支え、3人のお子さんの子育てにも積極的に関わるイクメンお父さん、職場では男女共同参画関係の職も兼任する研究者として活躍されている立場からのお話をお願いしたものです。お話の前半では子育てをしつつ出張もある仕事をどのように進めていったか、後半では職場での男女共同参画活動としてどのようなことを行ってきたかを主にご紹介いただきましたが、例えば奥さまの夜勤中に電化製品を駆使して家事・



図1 開催概要(会告チラシより)

育児をこなしていたという話などはとても具体的で、男女を問わず同じような立場の方にすぐにでも役立ちそうでした。またご自身の経験から、男性の家事参加のためには「最初は温かい目で」「いきなりハードルを上げない」「ほめてのばす」など子育てと同じスタンスで臨むのが良いという提言もいただき、会場に笑いと納得が広がっていました。

本ミーティングは、愛媛大学ダイバーシティ推進本部女性未来育成センターに共催いただきました。最後の話題提供として、女性未来育成センターを代表して柿原文香氏（愛媛大学農学部教授、女性未来育成センター副センター長）から「愛媛大学の取組」についてご紹介いただきました。現在大学で実施されている数々の対策を、大きく分けて環境整備、個々の研究者の支援策、情報発信という観点から整理していただきましたが、幅広い支援をされていることに感銘を受けました。様々な取り組みのうち、特に大学の理系女子学生のグループである「サイエンスひめこ」は興味深く感じました。「ひめこ」のメンバーは大学のオープンキャンパスに参加して女子中高生の進路相談にのったり、様々なイベントで講師を務めたりしているそうです。年齢の近い大学生に直接話を聞くことは、中高生の進路選択に大きな影響を与えることと想像します。

これらの話題提供に続き、参加者の方々を含めたディスカッションを行いました。ディスカッションコーディネータの堀澤栄氏（高知工科大学、本委員会委員）からは、まずは話題提供を総括する形で「キーワードはやはり周囲の理解ということになりそうです」との発言がありました。本稿のここまででは触れませんでした。職場や家族をはじめとする周りの人たちの理解と協力が欠かせなかったということは鍋嶋氏、安部氏ともに話題提供の中で指摘されていました。「理解と協力」というと月並みなように聞こえるかもしれませんが、その形は職場または家庭といった場によって、また状況によってケースバイケースであることがお2人の話題提供を聞いて感じられ、決して当たり前のものではないのかもしれないと思われました。堀澤氏のご指摘もその点を含めたものであったと思います。

その後堀澤氏のリードにより、会場との質疑応答が行われました。印象的だったのは男子学生さんの1人から「安部さんのようにイクメンになりたいのですが、仕事と家庭を両立させるためにはどのような職業に就くのがよいでしょうか？」との質問があったことです。安部氏からは「研究者は勤務時間の自由度が多い、仕事と家庭を両立させるためには理解のある職場を選ぶことがポイントですが、何より自分の心がけが大事」といった答えがありました。また出席いただいていた愛媛大学女性未来育成センタースタッフの藤原三紀氏から「大企業の方がワーク・ライフバランスの制度が整っていると思わ



図2 会場の様子



図3 質疑応答の様子

れがちだが、中小企業は社員の声が制度に反映されやすいという面もあり、先進的な取り組みをしている例も多くあるので、そのような会社を選んでみては」との発言もあり、参加者の参考になったのではないかと思います。

最後に中山榮子氏（昭和女子大学、本委員会副委員長）より総括として、家庭での役割分担の形は変化してきており、仕事と子育てや介護を両立させるためには家族が（男女を問わず）協力して取り組んでいく必要があるとの指摘がありました。また研究者は別居婚経験者の割合が高いという現状を紹介いただき、できるだけみんなで知恵を絞って上手に家庭と研究の両立を進めていきたい、と全体を締めくくっていただきました。話題提供から中山氏の総括までの全体を通して「仕事と家庭を両立させるためには、職場や家族の『理解と協力』が不可欠である」ことを会場全体で再認識することができたのではないかと思います。話題提供をいただいた方々、発言者、参加者の皆さま、どうもありがとうございました。

どのぐらいの人数にお集まりいただけるか不安でしたが、予想以上のご参加をいただきました。参加者にサンドイッチと飲み物を無料で準備したのですが、そのおかげもあったのかもしれませんが(?)。スポンサーとなっていたいただいた2社にこの場を借りて御礼申し上げます。また開催にあたっては松山大会事務局の先生方をはじめ関係各所に大変お世話になりました。どうもありがとうございました。

来年度の大会時にも同様の会を開催したいと考えています。お昼ご飯を食べながら身近な研究者の話の聞いてみませんか。次回も多数のご参加をお待ちしております。

## ダイバーシティ推進委員会 第2回ランチョンミーティング 開催概要

### ○日時・場所

2015年3月14日 12:00~13:00・愛媛大学城北キャンパス 共通教育講義棟

### ○プログラム

【はじめに】恒次 祐子（ダイバーシティ推進委員会委員長）

### 【話題提供】

1. 鍋嶋 絵里 氏（愛媛大学農学部生物資源学科）  
「研究と子育てとの両立...？」
2. 安部 久 氏（(独)森林総合研究所木材特性研究領域）  
「男女共同参画と私」
3. 柿原 文香 氏（愛媛大学女性未来育成センター 副センター長）  
「愛媛大学の取組」

### 【ディスカッション】

コーディネータ：堀沢 栄（ダイバーシティ推進委員会委員）

【おわりに】中山 榮子（ダイバーシティ推進委員会副委員長）

主催：日本木材学会 ダイバーシティ推進委員会

共催：愛媛大学 ダイバーシティ推進本部 女性未来育成センター

協賛：住友林業（株）、大建工業（株）

後援：男女共同参画学協会連絡会